

龍ヶ崎の お宝の木 巨樹・古木の発刊にあたって

わがまち龍ヶ崎には、何世代にもわたって大切に守り育てられてきた名木が数多く残されています。

龍ヶ崎の巨樹・古木（お宝の木）を保護し、後世に伝えていきたいとの気持ちがありましたが、市民の皆さまに話を伺うと、ほとんどの人が巨樹や古木に関心を持っているにもかかわらず、その存在が知られていないのに驚きました。



このような文化遺産を多くの方に知っていただくため、行政提案型の市民協働事業を募集したところ、「お宝の木発掘委員会」より提案を受け、事業化がなされたものであります。

本冊子に掲載された一本一本のお宝の木は私たちに感動ややすらぎを与えてくれます。編集の都合もあり、紹介できなかった巨樹等もたくさんありますが、本書をデータベース化・電子化し、新たに発掘した巨樹等を追加紹介できればと考えております。

また、本冊子を参考にいただき、龍ヶ崎市の歴史、文化、自然などに触れながら散策を楽しんでいただければと願っています。

最後に発刊にあたって多大なるご協力を賜りました「お宝の木発掘委員会」の皆さまを始め、監修でお世話になりました渡辺先生や所有者の方々、関係各位の皆さまに心から感謝申し上げます。



龍ヶ崎市長 中山 一 生

「お宝の木」

私たちは、「人が寄り添い」また「人に寄り添い」時の流れを超えて生き続けた木々を「文化遺産」と位置づけ、「お宝の木」と呼ぶことにしました。

「こんな木々を私たちは探しました」

■「大きな木」

全体から溢れ出る気を感じる巨樹は、それだけで神々しく、見る者に拠りどころを与えてくれます。数百年にわたって人間はその時に応じ、養生をし、木々を育て、木々に育てられてきました。

■「珍しい木」

なぜここにこの木が育っているのだろうと感じさせる木。（誰かが何処かから持ってきて育て、この異郷の地でここまで大きく生育した木。これからも永遠に育ってほしいと願わずにいられません。）

■「いわれのある木」

巨樹でなくても、珍しくなくてもいい。「なつかしく楽しい思い出」、「哀しい思い出」、「大昔から伝わる話などいわれやエピソードがある」

そんな木は人々に親しみを与え、温もりが感じられます。

「お宝の木・選考にあたって」

冊子の掲載にあたり、市内の巨樹・古木など約80本を候補として選びました。その中から、樹高・幹周り・推定樹齢・いわれなどから独自に採点を行い、その上で評価の高かった樹木を紹介しました。残念ながら今回掲載できなかった樹木も今後、ホームページ等で追加紹介していければと考えています。

「保護・育成で永遠の絆を」

「お宝の木」を探すに当たり、約8年の年月を要しましたが、その間にも残念なことに何本かの木々が伐採されてしまいました。人間の営みには無抵抗な「お宝の木」を保護・育成していかなければなりません。

私たちは、木々と人間の永遠の絆を守ることを目指し、更なる活動をしていきます。

お宝の木発掘委員会